

## 一般財団法人奈良市総合財団 設立趣意書

奈良市は平城京開都以来、千三百年を超える歴史と伝統に培われてきた日本のふるさとであり、長年にわたりこの地で多くの人々が生活を営むとともに、幾多の足跡を残してきたところであり、私たちは、それら先人の成果を継承している。

そして、現代において多くの市民が多種多様な活動を展開する中、本市においては、これまで多くの外郭団体を設立し、それらの団体が管理する施設は市民ニーズに即した多様なサービスを提供し、行政を補完し、代替し、あるいは支援する重要な役割を果たしてきた。

しかし、「民間にできることは民間に」を基本に官民の役割分担が見直される中、とりわけ公の施設の管理を主たる業務等としている外郭団体においては、存在そのものの意義が問われる状況となっており、特に本市の外郭団体を取り巻く環境の変化として、「指定管理者制度の導入」、「公益法人制度の改革」、「景気の低迷と厳しい財政事情」があげられ、これらの課題に対応することが求められている。

このような状況の中、設置目的が類似し、又は事業領域が関連している団体や事業規模が小さい団体の統廃合を進め、外郭団体が今後も効果的・効率的に市民のニーズに対応できる組織として存続していくため、以上の条件に適合した次の財団法人を統合するに至った。

- ・ 財団法人奈良市文化振興センター
- ・ 財団法人ならまち振興財団
- ・ 財団法人杉岡華邨書道美術財団
- ・ 財団法人奈良市都祁地域振興財団
- ・ 財団法人奈良市スポーツ振興事業団
- ・ 財団法人奈良市武道振興会
- ・ 財団法人奈良市勤労者福祉サービスセンター

これらの財団法人は、これまで文化・スポーツ・武道の振興、ならまち・都祁地域のまちづくり、書道・写真芸術の普及、勤労者福祉の増進にそれぞれ大きく寄与してきた。今後、これらの財団法人の統廃合により各団体の人材と事業を継承し、「競争力の強化」、「統合による組織及び職員の活性化」、「経営の安定」などに努め、一元的な管理のもとに総合力を発揮し、市民に良質なサービスを提供することにより、文化の創造と福祉の増進に一層寄与しようとするものである。

平成23年7月13日

一般財団法人奈良市総合財団

設立発起人 奈良市長 仲川 元庸